

## 第20回 緑の市民委員会

### 会議録

1. 日時 平成23年 10月 7日(金) 13:30 ~ 16:30

2. 場所 生駒市役所 401・402会議室

#### 3. 出席者

- (委員) 久委員長、 下村副委員長、 日高副委員長、 磯貝委員、 稲葉委員、  
大鋸委員、 倉品委員、 児玉委員、 林原委員、 藤田委員、  
山田委員、 岩井委員、 北島委員
- (事務局) 吉岡都市整備部長、前川みどり景観課長、西川花のまちづくりセンター所長、  
西本みどり景観課課長補佐、巽みどり景観課緑化推進係長、福山みどり景観課主査、  
坂東みどり景観課主任

#### 4. 議事内容

##### 1 開 会

##### 2 案 件

- (1) 花と緑の景観まちづくりコンテストについて(審査)
- (2) 市内の樹木調査について(中間報告)
- (3) 市民の森事業について(報告)
- (4) その他

**【久委員長】** こんにちは。一昨日はコンテストの審査をありがとうございます。  
それを受け、案件の1「花と緑の景観まちづくりコンテスト」の最終審査をさせていただく。まず、事務局のから御説明をお願いしたい。

**【事務局】** 花と緑の景観まちづくりコンテスト審査についての説明

**【事務局】** 映像を見ていただく。段取りするので、お手元の資料をご覧いただきたい。

- ビデオ上映 -

**【久委員長】** 現地審査について、下村副委員長から御報告をいただきたい。

**【下村副委員長】** それでは、現地審査の状況と委員で話し合った結果について御報告させていただく。現地調査日は10月5日で小雨が降っていた。  
この日も先ほどのように30ヶ所をビデオで拝見して、どこへ行くか話し合った。実際に行ったのは、車窓からも入れて15ヶ所だった。半分見学したことになる。

選考方法だが、稲葉委員から「前回まで応募がなかったところを入れては」と適切な御意見をいただいたので、新規の中で、候補に上がったところを中心に選んだ。

こういった観点で選んだのが当初10ヶ所であったが、写真で良かったところとルート上近いところを含め、最終的には15ヶ所見ることができた。戻ってから意見交換をして、最終的に選んだのがお手元の資料の 印である。

当日参加の委員は全員で10名であった。

話し合いの結果、コミュニティ部門15ヶ所のうち7ヶ所を候補としてあげさせていただいた。1ページ目の 印で、上からいくと、4番・5番・10番・14番・19番・24番・26番の7ヶ所である。

学校部門については、6校のうち4校を候補として選んだ。日高副委員長から「学校はたくさん候補をあげて」という意見があったので半分を超えている。

事業所は2ヶ所の申請で両方拝見したが、そのうち1ヶ所のみ30番を候補としてあげた。

個人住宅については、7ヶ所中5ヶ所をあげた。

現地審査の候補に限定するわけではないが、話し合いの結果この候補を中心に17箇所の各賞を選んでいく形にしたい。

**【事務局】** 下村先生から御報告いただいたように4番・5番・10番・14番・19番・24番・26番そして9番・13番・16番・23番・30番・2番・6番・17番・21番・22番を現地審査の中で選出していただいた。市民委員の協議により各賞を決定いただけたらと思っている。久委員長にお願いする。

**【久委員長】** ありがとうございます。  
これから審査に入りたいと思う。  
どのようにしたら良いか。合議が良い。それでは順番としては最優秀・優秀を選考する。  
実際見に行っていた方からが一番確かな評価をいただけるのではと思うが、「これを推します」とか応援演説をいただければと思う。最優秀・優秀に相当しそうなものはあるか。

**【稲葉委員】** 最優秀賞は圧倒的に22番の個人住宅だ。

**【磯貝委員】** どういう選び方か？その中の全リストから選んだのか？

**【稲葉委員】** リスト中の付いてる中から選考した。

**【久委員長】** とりあえず でセレクトしていただいているが。  
今、22番個人住宅を推す声があったが、対抗候補はあるか？全員一致か？  
それでは22番をもう一度確認のために是非というご意見は。

**【大鋸委員】** ビデオより現地のほうが綺麗であった。年間通して綺麗であると聞いた。審査とは関係なく綺麗というのが凄いいいのでは。

**【日高副委員長】** 長い間みんなで見つめていた。「あそこでお茶飲みたい」とか「喫茶店みたい」とか言いながら。

40年間ほど続けておられて、去年も一昨年もフローラ鹿ノ台の村田氏が推薦しておられた。やっと今年応募していただいた。コンテストのためにだけ綺麗にしているというわけではないところが評価できる。

**【大鋸委員】** そこが一番。コンテストは、やはり生駒を綺麗にするということが目的だ。コンテストだ

からといって慌ててやったわけではないところが良い。

【久委員長】 40年前からオープン外構はなかなか先進的だ。

【稲葉委員】 この審査基準というのを満たしている。

【林原委員】 手入れもよく出来ていた。ボリューム満点で見栄えも良かった。

【大鋸委員】 色も配置もとても綺麗だ。

【日高副委員長】 見た感じのセンスもすばらしい。

【久委員長】 それでは異議が無さそうなので、22番の個人住宅が最優秀賞に決定ということで良いか。優秀賞はどうするか。準ずるところがあるか。審査要領だと最優秀または優秀賞なので優秀賞はなくてもいいのか。

【日高副委員長】 たくさんあったので、みなさんいくつか思っているのではなかなか候補が上がらないのだと思う。

【久委員長】 個人的に良かったというところから意見をいただいて絞り込んではいかがか。

【藤田委員】 私は15件応募のあったコミュニティ部門から優秀賞を考えてはどうかと思う。その中でも参加人数が48人の10番と、参加人数17人の19番を支持したいと思う。

【久委員長】 はい、10番と19番。

【日高副委員長】 手入れが行き届いていなかった。写真のときは綺麗だったが。

【久委員長】 応援演説をお願いします。

【大鋸委員】 24番も綺麗だった。ここは人の目に触れる場所で、年間を通して綺麗にしておられた。コンテストに応募していない年でもずっと綺麗にしておられたというところを買いたいと思う。

【日高副委員長】 ここには行かなかったが、本当にずっと綺麗と聞いている。

【稲葉委員】 私も24番がいつも綺麗だと思う。

【久委員長】 今3つ上がった。

【山田委員】 デザインが毎年変わっているみたいである。

【林原委員】 学校部門の16番。

【大鋸委員】 16番綺麗だった。

【林原委員】 良かったと思う。人数は比較的少ないが、表玄関の方とか裏庭の方とか。

【日高副委員長】 中庭も。

- 【林原委員】 裏門とか広範囲にやっておられた。花が散ってもちゃんとやっておられたというのがいいなと思った。
- 【下村副委員長】 例年応募されるが、今年はいつもより綺麗だった。
- 【大鋸委員】 綺麗だった。
- 【児玉委員】 個人住宅部門の21番。これはいわゆる多肉植物だが、かなりユニークだなと思う。花は非常に少ないので華やかさには欠けるが、水をあげるポンプなど周りに置くものを追求されていて四季を通じてずっと綺麗に見られるのではないかと思う。
- 【稲葉委員】 21番は素敵だが、他に比べて管理が楽と思った。多肉中心なので。
- 【久委員長】 待ってもらいたい。まずは推薦いただきたい。それから難点を言っていただくことに。他に候補が上がらないと優秀賞にならないので。10番、19番、24番、16番、21番と5つ上がっているが、他にはあるか。それでは、先ほどの稲葉委員からの御意見を伺いたい。
- 【稲葉委員】 すごく素敵だったが、真夏の水やりの事を考えると他の植物で努力されたほうに加点したいと思った。
- 【日高副委員長】 綺麗にしておられる。階段のところも。
- 【大鋸委員】 そのあたりは個人の好みだと思う。「お花だけでなくも応募できる」という今までの認識を変えてくれる。今回の応募は珍しい。なんとなくみんな頭の中で「応募はお花」と決め付けているが、「このような場所も応募できる」という意味ではちょっと面白いと思う。
- 【日高副委員長】 ここも滞在時間が長かった。みなさんじっと見ておられた。
- 【大鋸委員】 それを見た人間がどう受け取るかだ。
- 【久委員長】 あと、候補の5つの中に難点があると言われていたが。
- 【日高副委員長】 10番。写真は綺麗だが、現地審査の際は草の中に花が咲いた状態。
- 【大鋸委員】 48人もメンバーがいて管理が良くない。
- 【日高副委員長】 気になった。
- 【久委員長】 他に難のあるというか、気になる所はあるか。色々御意見いただいたが、いかがか。去年や一昨年は、最優秀賞一点、優秀賞一点だった。
- 【日高副委員長】 激戦だ。
- 【久委員長】 どのようにしたらよいか。少し応援演説いただきたい。推薦すべきところは。

- 【大鋸委員】 学校部門が例年に比べて物凄く少なくなっている。これに歯止めをかける意味でも、16番が頑張っただけ綺麗にしているのは評価しても良いのではないかと。
- 【日高副委員長】 生徒とスクールボランティアの方と担当の先生とが頑張っておられる。
- 【林原委員】 市内に学校関係が49校ほどある。大学から幼稚園・保育所まで。その中で応募されたのが6校。一割強で少ない。今後育成するためにも激励がいる。
- 【日高副委員長】 子供達を育成することを考えたら。北小学校は常連だったのに、今回応募されてなかった。南幼稚園も。
- 【大鋸委員】 何が原因でこれだけ学校が激減しているかが知りたい。
- 【日高副委員長】 学校は、担当の先生が一生懸命されたら良くなる。吹奏楽などもそうだが。お花に力を入れてくれる先生がおられるかどうか、先生次第という所がある。それでもやはり学校として多くの応募をいただき、応援する意味で賞をお渡しすれば来年から状況が変わってくるかもしれない。
- 【林原委員】 現地審査の際、日高副委員長の一声で校長も教頭も出てこられた。この姿勢というのはいいなと感じた。日頃の熱心さがここに出てきているのだなと感じた。
- 【日高副委員長】 学校部門16番は教頭に案内してもらえた。雨が降っていて傘をさしながら、用務員の方も出てきていただき丁寧に案内していただいた。
- 【下村副委員長】 現地審査の時とその後の話し合いの時にも言ったが、学校の緑化とか学校の花コンテストというのは学校の子供達と先生方というのが多い。生駒市はそこに地域の方が入っている。他の市では「もっと地域の人にも協力してもらってください」とコメントするところが多い。常々、生駒は地域の方々が緑化されている活動が活発なのはすごいと思っている。今回はそういった学校が2校あり、その中でも16番の方が良かったと思う。比べる基準が難しく悩んでいるところもあるが、去年行った時より印象が良かった。
- 【大鋸委員】 綺麗だった。そういう意味でも評価したい。
- 【稲葉委員】 皇帝ダリアも立派に育てておられてわざわざ見せていただいた。
- 【久委員長】 16番を推す声が多そうだ。
- 【日高副委員長】 優秀賞と学校応援の賞を出せたらいいなと思う。19番も先ほどのビデオは花だったが、現地審査の時は葉牡丹だった。凄く大きな葉牡丹が綺麗だった。
- 【稲葉委員】 しかし19番は毎年凄く綺麗だから今年ちょっと地味に思えた。
- 【日高副委員長】 毎年のレベルよりもということ。葉牡丹に植え替えられた直後だったため。
- 【藤田委員】 籠などをツルで作って工夫されていた。
- 【日高副委員長】 綺麗であった。
- 【久委員長】 私は先ほどのビデオしか見ていないが、いつもに比べると迫力がないという感じがした。

- 【日高副委員長】 19番はもともとレベルが高いので、普段の美しさを見られると結構不利だ。
- 【久委員長】 どうしたものか。
- 【日高副委員長】 21番は稲葉委員があまり手のかからない植物と言っておられたが、大鋸委員の意見のようにそのような種類の植物を上手く使われていた。単に花びらの色でというのではなく葉の種類でも上手く構成できるという例となった。21番は22番の次に長い時間見ていた。
- 【藤田委員】 もう少し花が多かったら。
- 【大鋸委員】 優秀賞が一点だとしたら学校部門の16番に差上げたほうが良い。12人であれだけがんばっているということの評価するべきだ。現地審査に行かれた方から御意見いただけたらと思う。
- 【久委員長】 学校関係は「出し続けたらそのうち優秀賞もらえるぞ!」という例にするためにも16番にさせていただこうか。それでは、異存がなければ決定する。  
続いて各部門の賞へ。コミュニティ部門の候補は10番・19番・24番だが、それ以外で部門賞に上がるものはあるか。10番は周りの草が良くないという御意見があった。そうすると19番・24番の2つに絞り込まれる。
- 【日高副委員長】 三角がいくつかあったが。
- 【稲葉委員】 やはりいつも綺麗にされている24番かと。長い期間されていて、毎年綺麗になっている。
- 【久委員長】 コミュニティ部門は景観賞、まちづくり賞で2点入る。他候補が上がらなければ、19番・24番で賞の名前を決めさせていただきたい。
- 【磯貝委員】 20番は全然候補に上がらなかったのか。
- 【日高副委員長】 そんな事はない。
- 【稲葉委員】 100人もメンバーに入っている割には管理が行き届いていなかった。それで、ちょっと無理かなという事になった。
- 【日高副委員長】 字をイメージしているのかなと思うような花の植え方というか、抜け方であった。枯れた部分があったので、最初は候補に上がりかけたが、100人でしている割にはという意見が出た。
- 【磯貝委員】 結構年配の方が頑張ってくれた。
- 【林原委員】 人数も多いし、バックヤードも良い。ベンチが置いてあり、色々な樹を植えられている。寿大学の卒業生が手がけている。私も植えた1人だが、花のボリュームがあったらもっと良かった。
- 【稲葉委員】 来年を楽しみにしたい。

- 【下村副委員長】 市章は他に花のない植物を入れたら、文字がそのまま浮き出たのではないか。
- 【磯貝委員】 専門家もいるが、どちらかというとな素人集団で設計を進めてきたと聞いている。
- 【藤田委員】 市章をデザインしようというアイデアが出た。
- 【下村副委員長】 今回4番は見に行かなかったがいつも綺麗にされていて、今年プランターから地植えにされたと記入されている。植えられない場所の花飾りの最後の手段はプランターだと思うが、やはり出来れば地植えの花壇というのが望ましい。絶対に推すというわけでもないが、こういうところで少し進展させたりするのも大事と思った。
- 【大鍋委員】 7人でこれを頑張ったってことも評価したい。大変だったみたいだ。
- 【日高副委員長】 大木の根切りが大変だった。
- 【稲葉委員】 ここは人の目に触れる場所だ。
- 【日高副委員長】 出来上がりを見るので、「綺麗になっているのは当たり前」と、自然とレベルを高くしてしまうことがある。大変だったと思う。何か賞を差し上げたい。
- 【久委員長】 この後の部門で2つ賞に値しない場合もあるので、この部門で3つ賞をとというのもいいと思う。4番・19番・24番。4番はそういう意味ではまちづくり賞か・・・。
- 【日高副委員長】 景観賞がふさわしい。
- 【久委員長】 19番24番はどうか。
- 【稲葉委員】 24番はまちづくり賞。日高副委員長いかがか。
- 【久委員長】 19番はどちらでもいけそうだ。
- 【日高副委員長】 たくさんの方々が色々な形で協力していただいて地域の活性化につながっている。
- 【久委員長】 19番はまちづくり賞にするか。確認するが4番がコミュニティ部門の景観賞、19番がまちづくり賞、24番が同じくまちづくり賞ということでよいか。  
それでは続いて学校部門。学校は16番が優秀賞と決定し、他の候補は今のところ上がっていないが。
- 【日高副委員長】 現地審査の際、9番はPTAとスクールボランティアの方々に小雨の中作業されていた。一部木陰で日当たりが悪い場所があり、木が根を張ってくるといって根切りもして努力されていた。9番はどうか。
- 【久委員長】 9番のお声をいただいた。
- 【大鍋委員】 9番は、種からも苗を作っていると言われていた。
- 【久委員長】 今、9番を候補として上げていただいた。他に賞に値する所はあるか。  
それでは9番の賞はどちらがよいか。

- 【委員多数】 まちづくり賞
- 【久委員長】 それでは学校部門はまちづくり賞を9番に。  
この部門は優秀賞が選ばれているので一つでよろしいか。  
続いて事業所部門だが、エントリーが2箇所。ここは賞に値するのかもしれないのか判断いただきたい。
- 【日高副委員長】 30番。今年はバス停のプランターは無かった。駅前のバス停付近には。
- 【稲葉委員】 しかし、年間を通じて飾っていたということで評価できる。
- 【日高副委員長】 30番に景観賞を差し上げたい。
- 【久委員長】 30番に事業所部門の景観賞。
- 【磯貝委員】 今年は少し寂しくないか。
- 【大鍋委員】 少し寂しい。いつもに比べると。しかし、今年は去年に比べると綺麗だった。8月末でも。
- 【日高副委員長】 人通りが多いところをずっと維持されるのは大変だ。
- 【磯貝委員】 一番目立つところであるから。
- 【久委員長】 30番に賞を差し上げておくと、今度できる北口の再開発地区も頑張ってもらおうというプレッシャーをかけられるかなと思う。
- 【林原委員】 外から来られた方々、特に市外からの方はケーブルカーに乗って宝山寺や遊園地に行かれる。その玄関口でもあるので、大事にしておられると思う。そういう意味でスポットライトが当たるところなので押さえておきたい。日ごろから頑張っておられるので。
- 【久委員長】 30番が事業所部門の景観賞とする。  
それでは最後に個人住宅部門だが、候補として21番を上げていただいたが、後はどうか。
- 【稲葉委員】 17番はどうか。
- 【久委員長】 後はいかがか。
- 【稲葉委員】 随分長い間取り組んでおられる。
- 【大鍋委員】 現地には行けなかったが。  
長い間取り組んでおられる。
- 【磯貝委員】 2番というのはどうだったのか。
- 【稲葉委員】 以前景観賞をもらわれたと思うが、今年は雑然としていたので。
- 【日高副委員長】 現地審査に行った時には。ビデオも綺麗だったし写真も綺麗だったが、一昨日は雑然としていて残念だった。

- 【稲葉委員】 22番のお宅に比べると昔風の建物だから前の部分のガーデニングは難しいと思う。あまり洋物は似合わないし。
- 【日高副委員長】 ハンディだ。
- 【磯貝委員】 結構道路との延長線が長いから目立つ。
- 【日高副委員長】 細長いところに植えないとだめなので。「来年も頑張ってください」という賞があればいい。
- 【林原委員】 簡単な賞状1枚でもいいので差し上げたい。
- 【久委員長】 そのあたりは総評のところアドバイス的にもさせてもらうという事もできる。17番、21番でよろしいか。それでは賞の名前を決めることとする。17番はいかがか。
- 【日高副委員長】 景観賞。
- 【久委員長】 景観賞でよろしいか。では、21番は。
- 【稲葉委員】 確かに17番は景観賞だが、そうすると21番の多肉の庭がまちづくり賞と言われると難しいと思う。17番の方がご近所も誘ってされているのでまちづくり賞かなと思う。
- 【久委員長】 景観賞2つでもいい。両方景観賞でも。それでは個人住宅部門は、17番が景観賞。21番も景観賞。
- 最終確認させていただきたい。  
最優秀賞が個人住宅部門の22番、優秀賞が学校部門の16番、各部門賞はコミュニティ部門4番が景観賞、19番がまちづくり賞、24番もまちづくり賞、学校部門9番がまちづくり賞、事業所部門30番が景観賞、個人住宅部門は17番は景観賞、21番も景観賞ということではよろしいか。
- 【大鍋委員】 学校部門13番が雨水を利用しており、子供達も含めて作業しているので賞状1枚でも差し上げ評価してはどうか。子供達に環境の取り組みの大切さを知らせる意味でも。
- 【日高副委員長】 小さい幼稚園の園児と一緒にされている。
- 【大鍋委員】 雨水を無駄にせず花づくりをしているという子供達や園児に対して実行していることを評価できないか。エコ賞はどうか。
- 【久委員長】 賞の数的にはもう一つ渡せそうだ。活動という意味ではまちづくり賞か。努力賞や奨励賞はどうか。
- 【大鍋委員】 見に行っていないから印象がわからないかもしれないが、いつも綺麗にしてある。
- 【日高副委員長】 去年はまちづくりだったか。

- 【事務局】 去年は景観賞。一昨年には奨励賞をもらっているところがある。
- 【久委員長】 奨励賞としては、何を奨励したかというのはコメントで説明する。
- 【稲葉委員】 努力賞の方がいいのでは。雨水を溜めて水やりに使ったということ。
- 【久委員長】 それでは13番に努力賞。後はどうか。
- 【下村副委員長】 賞には少し届かないかもしれないが、個人部門の6番が良い。花飾りをされている方がお母さんと子どもたちなので、次の世代の生駒の町を担っていただけそうな気がする。子供さんが地域でまちづくりに関して貢献しているという感じがする。ただ自宅の花植えをしているというだけだが、個々の家がこのように少しずつでも地域の中で花を植えたらまちが変わっていくという印象があった。
- 【日高副委員長】 ちょうど植え替えされているときであった。この間行かせていただいた時はハロウインのかぼちゃも飾ってあった。
- 【大鋸委員】 植替え時だったので間の悪いときに来てくれたという感じであったが、割と小さい土地でも子どもたちと一緒にやるということで下村副委員長のおっしゃったように健全育成や将来につなぐというメリットはある。
- 【下村副委員長】 どの賞かというとなしかもしれないが、感想として。
- 【久委員長】 例えば、努力賞を差し上げてオータムイベントに参加してもらおう。「来年も頑張っ」という意味で。  
こういう手もあると思う。表彰式に来ていただき、イベントにも参加いただくと他の方がどうということされているかわかると思う。恐らく選に漏れると来ていただく機会がない。
- 【日高副委員長】 賞をお渡ししなくても続けてはいかれるだろうと思うが。ハロウインの飾りをしたり子どもたちが水やりをしたり。「良くがんばったね」と言えたらいい。
- 【下村副委員長】 市内に他にもそういう所がないかといったら分からない。そのため「あまりふさわしくないよ」と思っている委員もおられると思うが。
- 【久委員長】 「ほのぼの賞」だ。
- 【日高副委員長】 そんな感じだ。
- 【磯貝委員】 ビデオに写っている子どもさんはこの家の子どもさんか。
- 【事務局】 隣の子どもである。
- 【久委員長】 「ほのぼの賞」でいいか。
- 【日高副委員長】 良いと思う。
- 【大鋸委員】 努力賞はどうか。
- 【久委員長】 努力賞の方がいいか。

- 【稲葉委員】 景観賞というのは合わないと思う。
- 【下村副委員長】 まちづくり賞や景観賞ではなく、他の賞が妥当だと思う。
- 【久委員長】 若い親御さんが子どもさんと一緒に育てておられるという所を評価するということが良いか。
- 【稲葉委員】 これ以上賞はあげられないか。
- 【久委員長】 私より事務局に聞いてもらいたい。  
確認だが、審査要領の中で景観賞とまちづくり賞までは、賞状と副賞をお渡しすることとなっている。先ほどの努力賞・ほのぼの賞に副賞をお渡しするか。それとも賞状だけなのか。事務局と委員のみなさんに確認したい。
- 【磯貝委員】 大丈夫。
- 【事務局】 増えても差し支えない。
- 【日高副委員長】 太っ腹。
- 【久委員長】 先ほどの稲葉委員のお話のところは、賞をあげられるか。
- 【稲葉委員】 14番のコミュニティ部門の公園。長い間続けられている。
- 【大鋸委員】 それと、やはり目立つ場所である。
- 【日高副委員長】 現地審査の際は車窓から見学した。大通りだからゆっくり走れなかったが綺麗だった。ここもずっと続けられている。
- 【大鋸委員】 写真の時より綺麗だった。
- 【林原委員】 実はここをよく通るが、夏祭りをしていて。二日間の祭りでごみを花にぶつけられてだめになった。掃除が大変なくらい。それでも生き残って車窓で見た限りは綺麗であった。
- 【稲葉委員】 あそこにお花がなかったら随分寂しいと思う。
- 【林原委員】 遊んでいる子どもさんは多い。
- 【久委員長】 14番も努力賞でよいか。コンテストも4回目になり、今の御意見にもあったように何回も応募されていると「継続されている」という御意見がいただけるようになった。「応募を続けると賞がもらえるかもしれない」という雰囲気を作っておくのも良いと感じる。
- 【林原委員】 提案がある。コミュニティ部門の10番はバスロータリーで「町を挙げての取組」をされている。スポットとしてはいいし頑張っておられる。県では賞を貰っておられるのに市の方選から漏れたとなるとバツが悪いのではないかと。
- 【磯貝委員】 最優秀賞を出すのなら良いが、それ以外の賞は失礼にあたるのでは。山田委員。

- 【林原委員】 努力されていることは良く分かる
- 【磯貝委員】 山田委員は立場的に言いづらい。  
山田委員、花壇の周りの草は誰が刈っているのか。
- 【山田委員】 自治会委員の人たちや住人。
- 【磯貝委員】 草刈りも入っている。
- 【久委員長】 確認させていただくと、頑張っている分、草も刈っておいて欲しかったと思った。
- 【山田委員】 ごめんなさい。審査の時に私は行けなくて。事情で申し訳ない。2・3日前に行かれたのか。
- 【日高副委員長】 一昨日。
- 【山田委員】 今年は凄い日照りで、花も植えた時はもっと綺麗だった。面積が広いこともあり草刈が追いつかない。草が生えないようにリュウノヒゲを周りに植えたがそれでも追いつかない。では、花壇の面積を広くすれば良いのではないかという事になるが、ロータリー付近だけではなく全部で7ヶ所もある内の1ヶ所だから。
- 【事務局】 ビデオ撮影は8月。
- 【林原委員】 草がない方がいいのか、土だけがいいのか。雑草があってもイギリス的な自然な庭がある。イギリスの庭は草原であっても良い。雑草も生き物だからあっても良いのではないかという考え方を持っている。ごく自然に。
- 【山田委員】 リュウノヒゲは土が流れない。
- 【久委員長】 一昨日はこれよりも長かった。
- 【日高副委員長】 花が埋没してしまう。もったいない。
- 【久委員長】 今年だけではなく来年以降もあるので。  
よろしいか。
- 【委員一同】 異議なし
- 【久委員長】 ありがとうございます。  
他の案件があるが、休憩をとらせていただく。

休 憩

【久委員長】 それでは案件の2番、市内の樹木調査について中間報告だが、願います。

【事務局説明】 市内の樹木調査の中間報告

【磯貝委員】 それでは説明を始める。お手元の資料については後ほど説明する。  
まず事務局から説明があったように、5月にスタッフ10名が揃い、6月に2回の会議をした。

打ち合わせの内容としては、調査票の記載内容の統一であった。我々も初めての経験であった。10名の中で専門家に近い方は2名おられた。その他はほとんど素人ということで、どういう風にまとめていくかを第一前提とした。

それから今後のスケジュールづくり、10名のスタッフの班分けをした。A班とB班とに分け、調査エリアを近鉄奈良線あたりで北と南に分けた。北側がA班、南側がB班と担当を決めた。進捗状況としては、4月5日に第1回目の合同調査を行った。この調査では測量の仕方を確認した。角度の測り方、高さの測り方、三角法という方法で高さを調整した。

幹周りは、生駒市の基準としては地上高1.5mあたりと決められている。そういったルールを決めて調査を行った。

生駒市誌というのがあり、42ヶ所の樹木林が出ている。この調査は1980年にされていて約30年前の調査資料である。この木がどのように動いているかということでその調査をした。このような調査を専門的にする活動団体で「グリーンあすなる」という団体がある。この団体も巨樹とか古木の調査を奈良県内でしていて実績を持っているが、生駒市内での調査内容が9件あった。

合わせて50数ヶ所の樹木林を調査するのが第一段階。4月から9月上旬までで約51ヶ所を現地調査した。結果は生駒市誌に掲載されている42ヶ所の中で残っているのが25ヶ所。残存率は約60%、6割の樹木が残っていた。

17ヶ所ほどの樹木がどういう風な状態で消えて行ったかということ、枯損、台風等の被害で倒れた、個人邸や神社等の建築物の増改築で、邪魔になったから切られた。非常に惜しいことをした。グリーンあすなるが調べた9ヶ所の樹木は現存しており、10年ほど前のデータが残っていた。残りは25ヶ所とあすなる調査の9ヶ所で合計34ヶ所は現存しているということになり、お手元の調査票の形式にまとめ現在整理中である。

今後のスケジュールとしては、次回の緑の市民委員会が年内に開催されるので、その時に報告できるようまとめていく。

それから、事務局の方に市民の方々から自宅、近所に大きな樹木があるという情報が届いている。この情報についても調査していく。

さらに、この調査が終了すれば樹林マップや巨樹・古木めぐりなどの冊子を作成したい。前に委員長から箕面市のデータをいただいたように樹木めぐりみたいなものを小冊子として作成できればいいかなと思っている。

お手元の調査資料は一例ですが無量寺というのがある。資料は3ページにまたがっており2・3ページは写真がついている。

調査票のデータとして樹木番号、調査日、調査員名、樹種名、所在地、所有者。

それから規模として幹まわり地上1.5mのところ調査した。イチヨウの木は230cmであった。もう一つのデータとして、地上高1.3mの高さも取っている。一般的に木の高さは1.3mを使っているが、生駒市の場合は地上1.5mで調査することになっている。

それから樹高につきまして10.7m。これは三角測量で調査した。枝張り東西8m南北7m。健全度良好。

観察記録は個人差があるため、グループごとに打合せしながらまとめている。このデータは3回目です。まとめたデータである。本堂の前に樹齢250年以上といわれるイチヨウがある。普通のイチヨウの木と違って見えないか。丸い。こんなタイプは少ない。所有者の

お寺の方の話では5、6年前に剪定された。木が立っているのをぷつんと切って、枝を落としていくと何年かすると丸くなる。仕立てた木でろうそく型になっている。

樹皮について特徴的なポイントは乳根（ちちね）といい、非常に珍しいケースである。この木はぎんなんが沢山成るそうだ。

観察記録があって、その下に常緑か落葉かという分け方。

見所は垂れ下がった乳根。見ごろは春から秋。

トイレはこの場所は無かった。

パーキングも無かった。

その下は所在地の周辺、壱分の駅から東へ10分で、上田酒造のすぐ上手という場所。地図も表現の仕方が色々あるが、大体こういうまとめかたをしている。

写真の解説で、上の番号は先ほどと同じ。樹木番号、調査日、調査員名、樹種名、所在地、所有者。

撮影日が8月1日。無量寺の場合は表示板があったので、写真を1枚撮っている。浄土真宗のお寺で、立派な山門がある。イチヨウの木の全景で、岩井委員が立っている。委員の背の高さと比べて相当高い。

次が乳根、ポールで指している。木の枝から垂れ下がっている。非常に珍しい。木に詳しい方に問い合わせるとよくあるそうだ。

私は初めてで、大発見したと思った。

次の写真が、寺にあった乳根を切った残骸。中はどんなのかと思うとやっぱり年輪がある。乳根とは何か。枝か、根か。

状態は天然のコケが付着していて、ほとんど異常はない。

この乳根というものはイチヨウの巨木でしばしば見られる。枝から垂れ下がっているものを乳根という。イチヨウというのは雌雄異株で、メス株もオス株もある。おっぴいのような形に垂れ下がっているのが乳根と呼ぶ。何故そう呼んでいるのか調べてみたがわからなかった。

乳根はメスの木にもオスの木にも出てくる。専門的な事は久委員長や下村副委員長がご存知だと思う。この乳根を気根という場合もあるが、気根というのは普通酸欠状態で地下から上がってくる。これは上から下がってくるので気根とは言わない。窒息するような状況でもない。気根ではないから乳根ではいいのではないかという説明になってしまう。

全国的に調べると結構あるが、生駒では初めて見つけたので今回説明用の資料にさせていただいた。

以上簡単に説明させていただいた。

**【久委員長】**            ありがとうございます。御質問、御意見はあるか。

**【下村副委員長】**        質問させていただく。  
生駒の樹木調査は先程事務局から話がありましたが、市街化区域内の樹木か。

**【磯貝委員】**            いいえ、調整区域も入っている。リストには今回はそういった分け方をせずに市誌に載っているデータをベースにしている。

**【下村副会長】**            分かった。それで、調査票の様式、フォーマットが決まっているのか。

**【磯貝委員】**            調査票のフォーマットは、ほぼこの形である。若干増やしたいところと常緑、落葉の欄とか見所、この辺のところはもう少しまとめ方を考えたい。

**【下村副委員長】**        可能性があるのであれば、絶対にこうしてほしいということではないが検討していただきたい。

私が気づいたのは、まずタイトルとしての印象で、生駒の「樹木の植生調査」というよ

りも大きな直径の木、「大径木調査」若しくは「古木調査」、「巨樹・樹木調査」というような樹木に限定した名前のほうが分かりやすいのではないかと思った。

そして観察記録のところ、いわれがある樹木が結構あるため、伝承や古事がここに記録と同時に書かれてあると見やすい。

お寺で聞かれた話であるとか、市誌から抜粋されるなど、観察のみならず「いわれ」とか伝承古事も枠を設けていただきたい。

それに、樹種名と雌雄があればその別とともに、調査から戻ってから調べて書けるようにイチョウ科など「科」の名前を書く欄があれば良い。「属」まではいるかどうかだが、「科」は入っていてもいいと思う。

学校で調査する場合は、学名を入れないといけませんが、今回はそこまでは必要ない。

それから、下に書いていただいているように、樹齢推定250年など他にも推定ができるのであれば上にあげておくのもいいかと。

**【磯貝委員】**           ほとんど出来ない。

**【下村副委員長】**       では、下で結構かと思う。

健全度について、一般的に「樹木活力度」というのをを使うが、かなり自然地のところでの調査資料なので、ここでは「良好」と「欠損」と「不良樹形」とあと何か付け足すという感じでよいかと思う。

先程、磯貝委員が説明されていた「常緑」・「落葉」の区別のところの後ろに、トイレとパーキングというのがあるが、これは行を変えておいたほうが良いと思う。樹木のことではなくて周辺施設の話なので。欄を変えておいたほうが見やすいという印象を持った。

気付いたことは以上だ。

写真の順番は、全景が一番先ではないか。

**【磯貝委員】**           これはあまりこだわっていない。どうにでもできる。

**【下村副委員長】**       もし2枚にしか入らなかった場合は。

**【磯貝委員】**           6点でまとめようとしている。1ヵ所で4・50枚は撮っているため。

**【久委員長】**           私も同じことを思っていた。やはり樹木調査なので、一番上には樹木だと思う。

それ以外はどこに入っていくか場所の特徴。後は細かい特徴点を何枚か上げるという方が分かりやすい。

**【磯貝委員】**           出来るだけ全景を一番上にする。

**【下村副委員長】**       どう使われるかによって大分違うが、古木の指定とかそういう生態的なところまでを考えた樹木指定で補助金を出すという制度もある。

景観計画が出来て、景観重要樹木の指定となると道路からとか公園からとか公的なところからどれ位見えるのかというデータが入っておれば、景観重要樹木の指定に選定しやすい。立派な木でも神社の奥のほうにあると道からは見えないので、景観重要樹木としては厳しいが、木そのものは大切な木ということになる。このように両方書いておけば、後々データとして使えるのではないか。

**【磯貝委員】**           何と言われたか。

**【下村副会長】**       景観重要樹木。

- 【久委員長】** お手間をおかけするが、所在地周辺図「無量寺」の場所だけにこれは必要なのだが、この「無量寺」とその前の道路との関係の中で、このイチョウがどこにあるかという配置図があれば、その情報は凄く使える。先程下村副委員長が言われたように、それがちょっと離れたところで見えているのか。景観的に見えているのかいないのか。といった写真があればより分かりやすいのではないかと。
- 【磯貝委員】** 広いエリアの中の場合は見取り図みたいに敷地内を簡単に表して、ここは入ったらこれしかないのかこのような状況になっている。  
まとめ方は色々あると思うので、今のような景観の関係は、ワンテンポずらして考えさせてもらえたら。今、一番分かりやすいからこれを出しているが、大きい木は意外と見えない。  
何故かということ大きすぎて測れない。測りにくい。  
沢山の木の中の本だからこういうところに立っているとすぐ分かる。こんなところはほとんどない。そういう感じのところである。林の中の一角で、「これだ」と写真撮っているが分かりにくいケースもある。それを無理やり「これだ」と言っている。
- 【久委員長】** 生駒の場合は、担当されている部署がみどり景観課なので、「みどり」の観点でいうと「保護樹木」になるが、「景観」の観点でいうと「景観重要樹木」という視点もある。  
下村副委員長からアドバイスいただいている両方を指定できるのか、片一方だけなのかというところの基礎データにもなる。
- 【磯貝委員】** 事務局と相談してみる。
- 【山田委員】** 箕面市の場合もこのようなデータの作成をされたと思うが、久委員長も携わっておられて今のような方向で調査されたのか。
- 【久委員長】** 箕面の場合は市民グループが市民活動として勝手にやっているもので、自分たちの思いだけで作っている。細かい学術的調査をしているのではない。そこにもあるようにスケッチする人がおられるので、趣味でスケッチしてくれる。箕面の場合はそれを寄せ集めただけ。体系的に調査したわけではない。
- 【山田委員】** ある意味でこちらのほうが先駆的なデータの取り方。データの取り方としては。
- 【久委員長】** 先駆的な事をやっているのは吹田の市民環境会議。ここも完全に市役所とは関係なく市民活動として100本位自分たちで調査をされている。15年後もされている。ここは15年前と15年後をやって、15年間に何本減ったか増えたかというデータもちゃんと収集している。  
古木マップを500円で売っているが、これも自分たちで印刷代を出しながらやっている。個人的に「応援せなあかん」ということで、私も一冊買った。
- 【下村副委員長】** 私の大学院でも景観法の景観重要樹木が今後の課題であると、4、5年前に卒論のテーマにしたことがある。学生が大阪市内で調査し、それが景観重要樹木にそのまま移行できるかというのをやったことがある。そうすると、久委員長が言われたように保護樹木としては非常に立派な木でも、なかなか他からは見えていない。いきなり行政施策的になってしまうが、両方使えるデータとしておけば、より貴重なデータになっていくのではないかと。
- 【磯貝委員】** 確かにスケッチはいい。スケッチだと言葉は悪いがごまかせる。写真だと分からない。それをスケッチだと強弱をつけて描ける。強調するところを重点的に書いて、他はぼかし

てしまえばいい。そういう点でいいなと思う。

**【久委員長】** ちなみにそれは市民が自分たちのお金を出し合って活動したところ、大阪モノレールが機関誌に取り上げさせてくれと名乗り出た。さらに大阪モノレールはそれを冊子にした。ここでは、近鉄に売り込みにいく手もあると思う。

**【下村副委員長】** 今回の調査とは違うが、卒論の時に何をしたかという、今回の調査と同じ事と神社が多いので「いわれ」を聞き取ってメモした。後は可視領域、久委員長も言われていた「どこから見えるかマップ」を作った。そのキーポイントを周りから、主に道路のどこから見えるかを調べた。結構途中で見えなくなるが、離れたところでちょっと見えたりする。全部は拾いきれていないと思うが、平面図の中に落としこんだ調査を50何本かした。

**【磯貝委員】** 普通のカメラでは、例えば地上5・6m位までしか撮れない。先がない、先を撮りだすと下がない。撮影となると合成していかないといけない。そして離れていくと今度は見えなくなってくる。お寺とか広場にある木は簡単だが。

**【久委員長】** 後、ご意見はあるか。  
それでは、次回の委員会で最終報告をいただき、もう一つの目標である保護樹木等の指定に繋げていきたいと思っている。  
次に市民の森事業等について事務局から説明をお願いする。

**【事務局】** 市民の森、樹林地バンクについて説明

**【久委員長】** 御意見等はあるか。  
また、経過を報告いただけると思う。  
ちなみに市民の森事業は、今、地権者と交渉中だが、雰囲気的には順調なのか苦戦をしているのかその辺りを教えていただきたい。

**【事務局】** 所有者の方が高齢で施設に入られており、息子さんとお話をさせていただいている。土曜・日曜しかお話が出来ないので、調整を取りながらしっかりと趣旨を説明させてもらった上で交渉に持っていこうとしている状況である。

**【下村副委員長】** 広さは概算で何㎡か。

**【事務局】** 約8,500㎡位。東生駒の住宅の真ん中に残っている樹林地。以前サロンのほうで調べてもらった「残したい樹林地」の中の1つ。残れば色々な方面で使っていただくことができる。是非成功させたい。

**【久委員長】** 屋敷などの場合は、代替わりするときに意向が変わる事が多い。息子さんよりもお嫁さんの御意見が通る場合は。息子さんはそこで育っているので愛着があるが、お嫁さんは愛着がないのでそんなややこしいものは売ってしまったらという話になることが多い。事務局に頑張ってください、次の世代の方にもお願いできたらと思う。  
他にご意見はあるか。  
その他に入る前に、重要なことをお伝えするのを忘れていた。景観まちづくりコンテストは、当日までどの賞か黙って置いておいていただきたい。  
よろしいか。  
その他に移りたいと思う。事務局から説明をお願いする。

- 【事務局】** オータムイベントのお知らせ。29日はチェーンソーアートの実演。30日はコンテスト表彰式、園芸研究科の吉田健一氏の講演を予定している。委員の皆様の御参加をお願いする。
- 緑のカーテンコンテストの審査を稲葉委員と大鋸委員をお願いしていた。9月29日に審査を行ったと報告を受けている。御協力いただきありがとうございます。
- 【久委員長】** ありがとうございます。お二人の名前が上がっていたが、一言ずつお願いしたい。
- 【稲葉委員】** 軽い気持ちで行ったが、凄く感動した。力作が多くあまりに素敵なので、甲乙つけ難く最優秀賞を決めかねて2つ出した。あまりに見事なカーテンだったので、みなさんにも写真を見ていただくと思い、市に用意していただいた。回しますのでご覧いただきたい。この他にも1階2階と続けて長いカーテンにされているものもあった。
- 【下村副委員長】** 個人のお宅か。
- 【稲葉委員】** はい。事業所と両方だ。
- 【下村副委員長】** 部門は分かれているのか。学校はなかったのか。
- 【稲葉委員】** 学校もあったが、夏休みで手入れが悪くて。
- 【大鋸委員】** 思ったよりも凄い規模だった。自分でもやってみたが、このようにはなかなかできない。
- 【稲葉委員】** 景観的にも合っているのでは。
- 【大鋸委員】** ただ、現地調査はなかった。写真調査だけだった。でも、すごかった。
- 【下村副委員長】** ゴーヤと琉球朝顔があった。
- 【稲葉委員】** だいたいゴーヤが多かったが、他にもキウイなど色々あった。
- 【岩井委員】** 応募者はどれくらいあったのか。
- 【大鋸委員】** 30位だった。思ったよりもかなり見事だった。ここには写真はないが、ゴーヤ2本から枝分かれさせて育てた凄いのもあった。どうしたらそれだけ見事なのが作れるかというのを講習会等でしてもらいたい。なかなか上手くはいかないので、実技講習会をしていただけたら技術の底上げになるのではないかと事務局をお願いしてきた。
- 【藤田委員】** 先の芽の摘み方。どこで摘むかを知りたい。それによって全然違う。
- 【大鋸委員】** タイミングでずいぶん違ってくる。
- 【下村副委員長】** 地植えが大きくなる。
- 【大鋸委員】** それは、絶対地植えが大きくなる。
- 【稲葉委員】** そのプランターの横幅であった。

- 【大鋸委員】 プランターの場合、地植えでもそうだが、欲張ってたくさん植えるとだめ、1本だけ。せいぜい2本ぐらい。
- 【磯貝委員】 これは民間か。
- 【大鋸委員】 個人だ。事業所は規模が大きいので立派なのが出てくるかと思っていたが、個人宅の方がはるかに立派であった。
- 【林原委員】 審査はどちらが難しかったか。花と緑のコンテストと。
- 【稲葉委員】 こちらはかなり力作が多くて・・・。
- 【大鋸委員】 2人とも初めてだったので。また、審査するまでまったく見せられずに、写真がずらっと並んでいるのを初めて見て審査するという感じだったのでとまどった。
- 【林原委員】 これは生垣設置助成制度と狙いはほぼマッチングするようなイメージを持った。みどり景観課から見たら。年中じゃないにしても、通年的にされるでしょうから生垣に代わるような同等の価値があると感じた。
- 【大鋸委員】 育てている方々のコメントは、やはり「緑は気持ちいい」とか「クーラーを使わないで済んだ」というのが多かった。
- 【下村副委員長】 やっぱ南面の方が効果は高い。
- 【磯貝委員】 南か西だ。
- 【事務局】 こちらの景観の方のコンテストは主に見た目になってくる。私も審査に出席したが、コメントを書いていたが、それが審査の評価点に入った。だから、家族全員でやったとか色々書いてある。育てている状況がわかって良かった。
- 【大鋸委員】 雨水を利用したとかも評価が高い。
- 【久委員長】 緑のカーテンコンテスト、オータムイベントで御意見はあるか。  
よろしいか。  
続いてその他。
- 【事務局】 花とみどりの楽校について、今年で3年目となる。多くの応募があったが、花の講座、緑の講座と各15名ずつで6月4日から開講した。  
講座全体のコーディネートを担当していただいている下村副委員長はじめ久委員長に御協力いただきながら、受講生の皆さんは毎回熱心に受講されているということを報告させていただく。
- 【久委員長】 下村副委員長から一言お願いする。
- 【下村副委員長】 ここに居られる方々にも受付等のお手伝い、修了生の方も毎回来ていただき非常にありがたく思っている。興味のある方が多いなという印象を持っている。手を差し出せば乗ってきていただけそうな方がたくさん居られると思うので、皆様の活動に参加していただけるようにお声かけをお願いしたい。  
きっかけがあれば、第一歩さえ動き出せば、やっていただける方はたくさん居られると

いう印象を受けているのでお願いしたい。

**【久委員長】** 毎年、前半と後半に1回ずつお話をさせていただいているが、段々年齢バランスや男女バランスが良くなってきたと思う。色々な顔ぶれが集まってきた。  
御質問はあるか。  
事務局の用意した案件は以上だが、委員の皆さんから何かあるか。

**【磯貝委員】** 最近、サロンに行く人と人が集まっている。どうしてか。

**【事務局】** 楽校の修了生の方などに参加いただき活発に意見交換させていただいている。ありがとうございます。

**【日高副委員長】** 委員長から「花とみどりの楽校」の年齢バランスのことを言われて辛い。下村副委員長の話にもあったが、多くの方が希望されていて抽選で決めていく形での結果になっている。2年、3年続けて選考から漏れたという話も聞くので心苦しい。  
その中で、事務局からお話があったように、楽校の修了生の方がサロンの前に会合を開き、そのままサロンに流れ込むような形を考えていただいた。2ヶ月に1回であるが、毎回人数が増えてきている。充実したサロンになってきてうれしく思っているし、サロンで話し合ったことを市民委員会にも提案できると思う。  
下村副委員長の話にもあったが、ボランティアへのお声かけをいただけたらありがたいし応援をいただくようお願いする。

**【久委員長】** ありがとうございます。  
サロン形式をとらせていただいているが、継続は力だ。一時、人数が減ってやめようかなという時も来るが、それを乗り越え続けていくと、じわじわ増えていく。続けていくと、近隣の方、または新しい方の参入もあると思うので、頑張らないで長くやっていただけたらと思う。  
他はいかがか。

**【林原委員】** 話は戻るが、「花と緑の景観まちづくりコンテスト」は30件応募があって、その内の7件が初参加。初参加自体は評価すべきことだと思うが、問題は30件が多いのか少ないのかということ。もっと地区が力を入れていかないといけないと思っている。参加人数484人。人口が12万で世帯数が45,000位。1世帯に1人として約1%程度。この程度で広められるのか。花作りの今後を見据えて、コンテスト表彰者がもっと注目をあびて、上昇傾向に持っていけるよう力を入れた方がいいのではないかと提案したい。やりかたについては検討事項になってくるが。  
世帯数が45,000の内、個人住宅が7件。これは意外に少ない。それに、学校が先ほど申し上げたように49校あって、6校。これも異常に少ない。コミュニティ部門の参加が15団体であるが、自治会がベースである。調べたら自治会が市内で124団体もある。事業所においても2者のみ。市内には多くの事業所があるのにどうしてかと思う。  
奈良交通は会社をあげてされているということがわかった。先日ハイキングをしてバスに乗って大宇陀まで行ってきたが、北大和と同じように営業所に花が置いてあった。これはいい事だと思った。  
このように、会社をあげての取組を引き出すように持っていけないかと思う。部門的にみたら、もう少し我々の努力が足りないのかと思う。来年に向けもっと考えていけないかと思っている。

**【事務局】** コンテストの応募ということで、それにリンクして「花と緑のわがまちづくり助成制度」というのがある。年間8万円を限度として受け付けているが、今年は96団体が申請され

活動されている。予算は600万円。96団体の方が活動されている中、「コンテストにも参加してください」という声をかけている。ただ、現実に出ているのが30ということ。これに関してはもっとPRさせていただきたいと思っている。

**【久委員長】** 先ほど事務局からあったように、お金が貰えるとなるとすぐに手があがる。でも、コンテストのように「何がもらえるか」という話になると遠のいてしまう。

**【林原委員】** 駅前の商店街も花が綺麗に咲いている。ところが今年は応募されていない。これは聞き取りをしなければならない。

**【事務局】** 去年、緑化フェアがございまして、その前後3年間市が協力させていただいている。今年が最後の年なので、遠慮されているのでは。市がある程度支援させてもらっているので、応募されていないのでは。もともとはプランターで花飾りをされていて、それを市から貸与したハンギングの形でしていただいたという経緯がある。

**【日高副委員長】** 実は、私の家の近所に毎日必ず綺麗な花を飾ってあるお家と年間綺麗にしてあるお家がある。「コンテストに応募されませんか」と両方にお声かけをするが、「そんなぁ」と言われてそれ以上言えなかった。

**【林原委員】** 恥ずかしいのか。

**【日高副委員長】** そういう意味ではなく、「市民の森事業」「樹林地バンク制度」などととも、旧村の方々の思いが乗っていくのはまだまだなのかなという思いがした。

コンテストだからと言って、「ハイ」と手を上げてくれる訳がない。「そんなぁ」と言われたら終わりだった。

今回22番の方も村田氏が何年も声をかけて、やっと応募していただいたということもある。

私も旧村の方に遊んでいる森やら、手を入れて欲しい林やらをお持ちの方に声をかけ、やがて樹林地バンク制度や市民の森事業に繋がっていきたくて期待している。人と人とのつながりがその第一歩やと思っている。そういう形で協力出来たらと頑張るのでよろしく願います。

**【久委員長】** この制度は「他薦」もあるので、どんどん「他薦」で出していただけたら。例えば委員1人につき10ほど。その内何人乗ってくれるかは分からないが。

その他ありますか。

それでは次回の予定等も踏まえて事務局に返す。

**【事務局】** 次回の会議の日程については、12月中旬頃から1月中旬を予定している。

案件については、市内の樹木調査についての最終報告、保護樹木等改正についての審議を予定している。日程が決まれば連絡する。

**【久委員長】** また、色々な報告をいただけると思うので、よろしく願います。  
花と緑の景観まちづくりコンテストもあるので、オータムイベントの参加をお願いします。  
それでは、本日の委員会は終了とする。